

## シンポジウム5 企画概要

タイトル	地域包括ケア時代に在宅医療がなすべきこと
------	----------------------

### テーマ

地域包括ケア時代に在宅医療がなすべきこと  
～在宅療養の限界点を高める戦略について考える～

### 概要

昨年度行われた地域包括ケア研究会（2012）では、地域包括ケアシステムを構成する5つの要素について検討を深めるとともに、その支え方を「自助」「互助」「共助」「公助」という概念から整理した。さらに、地域住民、市町村や都道府県、介護事業者等の諸主体が何をなすべきなのかについて討議するとともに、医療と介護の連携の重要性が指摘された。しかしながら、実際に我々在宅医療従事者がどのようなことに取り組むべきなのかについてはこれまでのところ総論的な議論にとどまっている。

そこで、地域包括ケア研究会のメンバーである田中座長と堀田聡子委員をお招きして、「地域包括ケア時代に在宅医療がなすべきこと」と題するシンポジウムを企画した。田中氏のご講演では、これまでの我が国の介護に関する施策に長く関わってこられた医療経済学者としてのお立場から、地域包括ケアを巡る議論について概観していただく。堀田氏には労働・人事管理を専門とするお立場から、介護分野におけるケアの担い手や施策のあり方について、諸外国の状況も踏まえてご解説いただく。川越からは、在宅医療連携拠点に期待される役割を確認するとともに、地域課題の検討例として「救急医療と在宅医療」に関する多職種合同カンファレンスの様子を収録した映像を紹介する。

前半の3つの講演ののち、後半は「在宅療養の限界点を高める戦略について考える」と題して鼎談形式で議論を進める。地域包括ケア研究会（2013）で議論された内容を中心に上げる予定だが、現時点では下記のようなテーマを想定している。地域包括ケア時代に在宅医療従事者が何をなすべきなのかについて具体的なイメージを持てるような企画としたい。

#### 1) 医療・介護サービスやすまいの未来形とは

地域包括ケアステーションまたは在宅多職種協働チーム

病院や介護施設が行う専門職アウトリーチ

複合型サービスの発展形態（介護・看護連携）

医療高機能化するデイやショートステイ

終の棲家としての新たな住まい機能

#### 2) “地域看護”の未来形とは

地域において看護師に期待される新たな機能

#### 3) まちづくり先進事例からの学びを我がまちへ

先進事例から学ぶ：その成功の秘訣とは

地域住民のニーズやコミュニティが抱える課題を把握する方法

ステークホルダーを巻き込む手法